資料2 (R1)　歌詞

R1 作成　　2025-9-17　岡本雅幸

讃美歌262番
「十字架のもとぞ」

1.
十字架のもとぞ
いとやすけき、
神の義と愛の
あえるところ、
あらしふく時の
いわおのかげ、
荒野のなかなる
わが隠れ家。

2.
十字架のうえに
われはあおぐ、
わがため悩める
神の御子を。
妙にもとうとき
かみの愛よ、
底いも知られぬ
ひとの罪よ。

3.
十字架のかげに
われは立ちて、
み顔のひかりを
たえず求めん、
この世のもの皆
消ゆるときも
くすしく輝く
そのひかりを。

翻訳

1.
イエスの十字架の下に、
私は立ちたい。
乾ききった地にある
力の岩の影に。
そこは荒野の中の住まい、
道中の休息の場、
真昼の焼けつくような暑さと
日々の重荷からの。

2.
ああ、安全で幸福な隠れ家よ、
試みを経た甘美な避難所よ、
天国の愛と天国の正義が
出会う逢瀬の地よ！
聖なる族長に
あの素晴らしい夢が与えられたように、
私にとって救い主の十字架は
天国への梯子のようです。

3
十字架の影の下、
その向こう側には、
深く広く口を開けた
怖ろしい墓穴の暗闇があります。
ですが私たちとの間に十字架が立ち、
その永遠の墓への
道を見張る番人のようで 、
救いのために両腕を広げています 。

4.
イエスの十字架の上で、
私の目には、
私のためにそこで苦しんだイエスの、
まさに死にゆく姿が時折映ります。
その時私はおののきながら涙を流し、
二つの不思議を告白します。
それは、 贖いの愛の不思議と、
私自身は値しないことです。

5.
十字架よ、あなたの影を
我が安住の地とします。
私は日差しを求めません、
主の御顔の輝き以外の。
世が去り行くことに満足し、
損得を知りません。
罪深い我こそが唯一の恥であり、
十字架の栄光は我が誉れです。

※右記 Web の自動翻訳結果を一部編集

原詩
※讃美歌では 3 節が省かれます。

1
Beneath the cross of Jesus
I fain would take my stand,
The shadow of a mighty Rock
Within a weary land;
A home within the wilderness,
A rest upon the way,
From the burning of the noontide heat,
And the burden of the day.

2
Oh, safe and happy shelter!
Oh, refuge tried and sweet!
Oh, trysting place where heaven's love
And heaven's justice meet.
As to the holy patriarch
That wondrous dream was given,
So is my Savior by the cross
A ladder up to heaven.

3
There lies beneath its shadow,
But on the farther side,
The darkness of an awful grave
That gapes both deep and wide;
And there between us stands the cross,
Two arms outstretched to save,
Like a watchman set to guard the way
From that eternal grave.

4
Upon that cross of Jesus
Mine eye at times can see
The very dying form of One,
Who suffered there for me;
And from my smitten heart, with tears,
Two wonders I confess,
The wonders of His glorious love,
And my own worthlessness.

5
I take, O cross, thy shadow
For my abiding place;
I ask no other sunshine than
The sunshine of His face;
Content to let the world go by,
To know no gain nor loss,
My sinful self my only shame,
My glory all the cross.

出典 https://www.hymnal.net/en/hymn/h/621